

セメント工場周辺における重金属による環境汚染について(第2報、土壤中の鉛、亜鉛、銅、ニッケル)*

高塚 美和・島 洋久・山田 幸延
白井 宣一郎・内藤 良三・長井 喜久
仲 邦熙・松林 万行・垣野 隆一
村田 元秀

1. はじめに

セメント工場周辺における重金属特にカドミウムによる環境汚染が各地で問題となつた^{1,2,3)}。三重県においても県北西部の藤原町を中心とした西員弁地域のセメント工場周辺においてカドミウム汚染が問題となり、筆者らは土壤を対象に調査研究を行い、工場周辺地域土壤中のカドミウムは表層土に高く下層土に低い。また表層土のカドミウム濃度は工場からの距離により減少し、表層、下層の濃度差は小さくなる。土壤 pH は工場周辺部においては表層土に高く下層土に低い、表層土 pH と工場からの距離の間には逆相関がみられるなどから、工場周辺部では明らかにセメント工場からの粉じんによる汚染がみられるとしたが、一部の地域(大貝戸・坂本地域)において異常な高濃度のカドミウムが検出され、その原因については検討を要すると報告した⁴⁾。

今回はカドミウム以外の重金属、鉛、亜鉛、銅、ニッケルについて土壤の汚染状況の調査を行ったので報告する。

2. 試料の採取地点および採取方法

試料の採取地点は前報⁴⁾のカドミウムの採取地点と同地点で、工場を中心に半径 5 km の範囲内で 66 地点において、表層土、下層土に分け採取を行い、一部の地点では中間の層も採取した。採取方法も前報と全く同様である。

3. 分析方法

前報同様、王水分解一ジチゾンクロロホルム抽出一原子吸光法^{4,5)}で分析を行つた。なお、鉛については 2828 Å、亜鉛 2133 Å、銅 3237 Å、ニッケル 2314 Å の波長を用いた。

4. 結 果

表 1 に鉛、亜鉛、銅、ニッケルの分析結果を示した。地域の分類は前報同様工場を中心北西 1.5 km、南東 5 km で員弁川左岸を除いた地域を工場周辺地域、北西 1.5 km 以遠で真川右岸地域を大貝戸・坂本地域、員弁川右岸と真川の間に地域を真川左岸地域ならびに員弁川左岸地域の 4 地域に分割した。

4・1 鉛について

表 1 に示したように鉛は前報のカドミウムと同様な結果を示し、鉛による汚染もみとめられた。

すなわち、工場周辺地域においては表層土で 29~400 ppm と下層土の 15~97 ppm の 2 倍以上の値を示している。工場からの距離と表層土鉛の関係をみると図 1 のよ

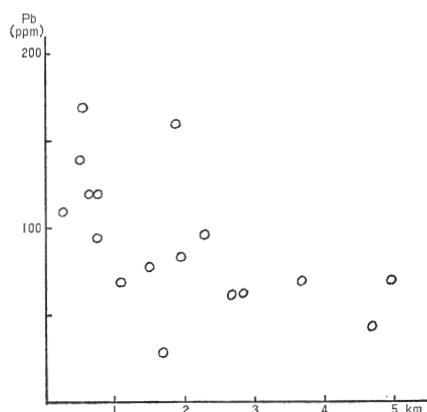


図 1 工場からの距離と表層土鉛との関係

*Environmental Contamination by Heavy Metals around the Cement Factory. Part 2. Lead, Zinc, Copper and Nickel Concentration in Soil.

Y. Takatsuka, H. Shima, Y. Yamada, S. Shirai, R. Naito, Y. Nagai, K. Naka, K. Matsubayashi, R. Kakino, M. Murata. (三重県環境科学センター). The Environmental Science Institute of Mie Prefecture

セメント工場周辺における重金属による環境汚染について

表 1 分析結果

地域	採取地点	Pb (ppm)			Zn (ppm)			Ni (ppm)			Cu (ppm)		
		表層	中層	下層	表層	中層	下層	表層	中層	下層	表層	中層	下層
工 場 周 辺 地 域	14	130	97	230	450	120	200	50	49	70	70	57	65
	15	400	110	60	450	41	54	29	42	35	38	46	46
	16	97	19	28	110	180	50	14	9.0	16	15	9.7	9.9
	17	120	20	180	170	130	11	11	13	20	20	15	15
	18	140	15	380	380	140	40	40	51	68	68	70	70
	22	29	48	170	170	190	89	89	52	72	72	52	52
	23	95	63	310	310	180	36	36	50	48	48	56	56
	24	110	25	340	340	170	57	57	62	66	66	56	56
	25	170	61	270	270	240	44	44	44	56	56	52	52
	26	120	45	220	220	240	55	55	51	73	73	74	74
	27	69	46	170	170	170	36	36	81	87	87	95	95
	28	78	57	230	230	220	47	47	44	40	40	47	47
	29	160	57	260	260	160	40	40	43	53	53	50	50
	30	84	44	200	200	150	40	40	52	51	51	42	42
	31	62	60	190	190	180	37	37	41	66	66	88	88
	32	97	57	230	230	220	47	47	61	65	65	81	81
	33	63	46	130	130	110	37	37	39	35	35	36	36
	34	70	61	150	150	160	33	33	37	54	54	75	75
	37	70	20	270	270	150	26	26	34	77	77	37	37
	38	44	23	140	140	110	42	42	34	110	110	87	87
範 囲	29 ~400		15~97 ~450		50 ~240	11~89		13~81	15 ~110		9.9~88		
員 弁 川 左 岸 地 域	9	16	21	56	94	16		29	17		19		
	10	37	21	140	71	16		6.4	25		17		
	11	14	14	59	44	8.7		9.6	6.1		6.7		
	12	25	16	79	53	13		12	14		11		
	19	44	11	81	56	12		13	17		10		
	20	16	21	53	70	16		21	12		17		
	21	34	21	120	80	21		21	30		18		
	35	45	30	110	93	22		31	24		23		
	36	12	13	42	41	7.6		10	6.0		7.2		
範 围	12~45		11~30	42~140		41~94	7.6~22	6.4~31	6.0~30		6.7~23		
大 貝 戸・坂 本 地 域	39	110	50	41	310	160	48	53	45	52	44	36	
	40	99	93	51	260	180	57	61	62	52	57	51	
	41	360	350	640	680	78		100	66		74		
	42	170	96	120	310	190	310	55	62	77	50	54	60
	43	390	310	860	600	61		57	91		87		
	44	260	150	380	280	42		48	84		74		
	45	890	1,100	1,900	930	1,000	1,300	44	58	55	160	240	230
	46	930	1,100	950	1,200	1,000	1,200	46	53	53	160		220
	47	330	430	160	520	520	230	22	43	26	140	170	100
	48	1,200	1,100	1,300	1,000	1,100	1,400	52	52	54	140	180	200
	49	930	1,000	1,200	920	1,100	1,000	48	59	52	160	210	200
	50	1,000	1,400	1,300	1,100	860	610	54	64	56	190	250	250
	51	700	820	830	670	620	720	49	54	56	100	130	130
	52	1,000	2,100	2,200	1,100	2,000	2,100	42	71	69	210		
	53	1,200	2,100	2,100	1,500	1,800	71		81	260		360	390
	54	1,400	2,100	1,200	1,600	1,400	80		60		250		310
	55	1,400	1,400	1,300	1,300	1,400	63		62		240		240
	56	1,200	1,300	1,400	1,400	1,400	55		61		220		250
	57	1,200	1,300	1,700	1,500	1,800	65		76		220		300
	58	1,400	1,300	1,500	1,300	1,200	58		69		190		280
	59	1,300	1,700	1,500	1,300	1,200	51		65		220		260
	60	1,200	1,700	1,300	1,100	1,300	51		57		110		160
	61	600	750	690	660	780	27		36	48	99	120	160
	62	500			580						110		
	63	1,200	820	660	1,500	830	640	62	43	46	260	130	100
	64	360			430						80		
	65	420			400	300	320	22		30	60		65
	66	210			220	290	250	39		39	69		65
範 围	99 ~1,400	50 ~2,100	41 ~2,200	260 ~1,600	160 ~2,000	150 ~2,100	19~80	36~71	26~100	52~260	44~360	36~390	
真 川 左 岸 地 域	1	50	27	17	130	68	45	50	83			53	
	2	56	25	89	78	27	40	39	41	62		58	
	3	110	30	27	170	81	100	30	37	50	72		67
	4	110	82	36	250	200	110	31	40	45	34	42	44
	5	440		310	510	390	43		35	84		74	
	6	54	44	130	97	40		36	43		53		
	7	290	55	52	390	120	98	44	51	57	58	55	
	8	69	22	120	83	27		38	44		64		
	13	200	190	70	260	240	140	31	42	44	40	55	53
範 围	50~440		17~310	89~510		78~390	27~45		35~50	41~84		53~74	

うに工場からの距離により鉛の減少がみられ、表層、下層土の鉛の濃度差も少なくなる傾向がみられ、セメント工場の影響によりカドミウム同様表層土のみに汚染現象がみられる。

工場より北西 1.5km 以遠に位置する大貝戸・坂本地域は、表 1 にみると工場周辺地域およびその他の地域に比べ異常な高濃度で鉛が検出された。すなわち表層土では 99~1,400ppm、中層土 50~2,100ppm、下層土 41~2,200ppm と普通土壌の鉛量よりはるかにその濃度は高く、また一般的に表層土より下層土に濃度がやや高いという現象がみられる。このような高濃度汚染は、工場周辺地域でみられたような大気からの降下物による影響のみでは下層土（表層下 30~100cm）にまで汚染がおよぶことは考えられず、他の要因による汚染と思われる。

真川左岸地域は全般に近接する大貝戸・坂本地域よりその濃度は低く、表層土 50~440ppm、下層土 17~310 ppm と、表層土は下層土に比べ濃度はやや高いが工場周辺地域ほどの差はみられず、工場からの降下物による影響よりも他の要因により汚染を受けた大貝戸・坂本地域の影響も大きく受けているものと考える。

員弁川左岸地域は他地域と異なり、鉛濃度は普通土壌の濃度と大きな差ではなく、カドミウム同様汚染はみられない。

4・2 土壌 pH と鉛との関係について

当地域の土壌は地質上石灰石を多く含んでいるため、土壌 pH は他地域より全般に高いと考えられ、降下するアルカリ金属を多量に含むセメント粉じんもその pH は高く、土壌 pH から汚染状況の把握を行い、pH とカドミニム濃度の間には地域により異なった現象がみられた⁴⁾。

そこで、前報で報告した KCl 法で測定した土壌 pH と鉛濃度との関係について検討した。図 2 に表層土における pH と鉛の関係を示したが、工場周辺地域では pH が高くなるにつれ鉛濃度が高くなり、工場に近くなるほど pH も鉛濃度も高くなり、工場粉じんが影響をおよぼしていることを示している。

大貝戸・坂本地域のうち大貝戸地区についてみると、表層土 pH は 7 前後に集中しており、鉛濃度も 600ppm 以上と明らかに他地域より異なっており、坂本地域は大貝戸地区よりさらに北西、工場よりは 4~5 km の位置にあり、セメント粉じんの影響を受ける割合は少ないが、鉛濃度はカドミウム同様工場周辺部より高く、pH も大貝戸地区に類似している。

員弁川左岸地域は土壌 pH も鉛濃度も低く汚染はみら

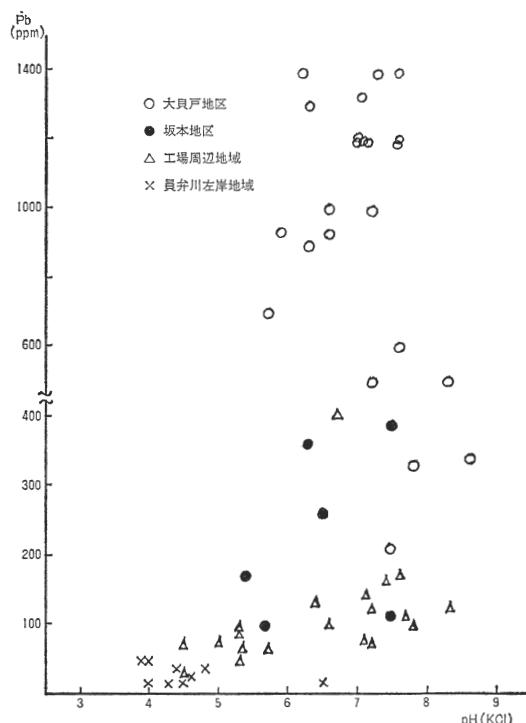


図 2 pH と鉛の関係（表層土）

れず、員弁川を境にして地質的にも異なっており、工場よりの汚染も受けていない。

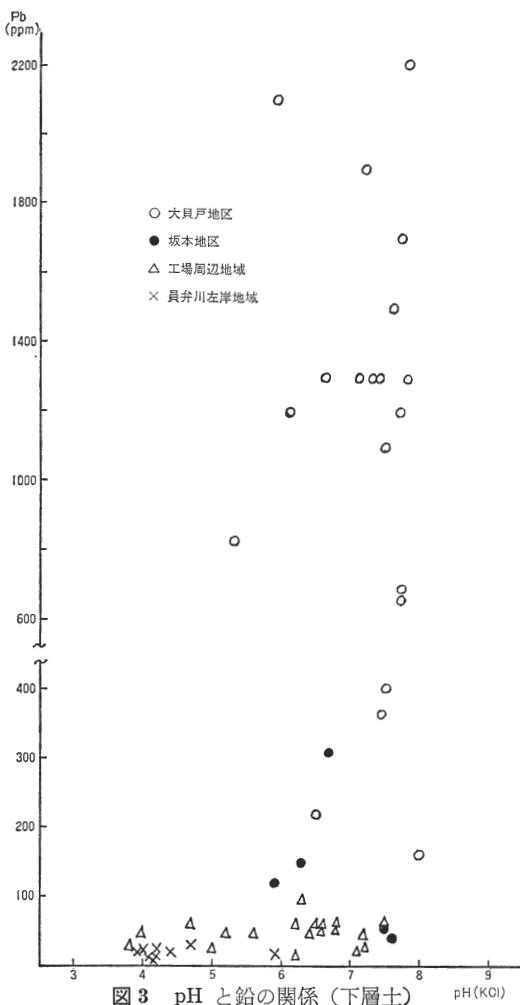
下層土 pH と鉛との関係を図 3 に示す。工場周辺地域は表層土とは異なり pH に関係なく鉛濃度は低く、汚染のみられない員弁川左岸地域とほぼ同じ値を示しており、汚染はみられなくなっている。大貝戸・坂本地域は表層土と同じ分布を示し、表層、下層とも鉛汚染が高いことを示している。

4・3 亜鉛について

表 1 に示したように工場周辺部表層土 110~450ppm、下層土 50~240ppm と表層土に濃度は高いが、カドミウム、鉛ほどその差は顕著でなく、工場からの距離と表層土亜鉛濃度との関係はカドミウム、鉛と同じように距離により亜鉛の減少がみられ、亜鉛による汚染もみられる。

大貝戸・坂本地域の表層土は 260~1,600ppm、中層土 160~2,000ppm、下層土 150~2,100ppm と工場周辺部よりはるかに高く、表層、下層に濃度差はみられず、カドミウム、鉛と全く同じ傾向を示しており、工場周辺部とは汚染の違いを現している。

その他の地域の土壌亜鉛は、カドミウム、鉛と同じ挙動を示している。



4・4 ニッケル、銅について

ニッケルについては表1にみると、貝弁川左岸地域はやや低い値を示すが、他地域にはそれはほど濃度差はみられず汚染はみられなかった。銅は、大貝戸・坂本地域は他地域より濃度は高く、高濃度に銅を含有している。

5. 考 察

板野ら⁶⁾は当西貝弁地域において調査を行い、カドミウム、鉛、亜鉛により土壤は汚染されており、その原因はセメント工場より排出される重金属を高濃度に含むセメント粉じんであると報告している。

大気からの降下物に含まれる重金属で土壤が汚染を受ける場合、その汚染は表層土のみで下層土にまでその影響はおよばないと思われる。熊城⁷⁾は道路周辺土壤の鉛汚染の調査を行い、鉛は表面のみに吸着され土壤下層には滲透しにくいとしている。また、農薬として鉛を多量

に施用した場合、鉛は表層土壤に著しく蓄積される⁸⁾。当地域は交通量は少なく、また土壤の採取場所としてなるべく人が加わっていない地点を選んでいるので、交通排ガス、農薬による影響は考えられず、このような現象から考え、前報のカドミウム同様、鉛、亜鉛の汚染も工場周辺部においては板野らのいうように明らかにセメント工場粉じんに由来する汚染と考えられる。

しかし、大貝戸・坂本地域の鉛、亜鉛はカドミウム同様下層土にまで高い濃度を示し、大気からの降下物すなわち工場からの粉じんのみでは前にものべたごとくこのような現象は考えられず、また土壤pHと鉛、亜鉛の関係をみても明らかに工場周辺地域とは異なった分布を示しており、当地域の異常な高濃度の重金属による土壤汚染は地質に由来する自然汚染ではないかと考えられ、大貝戸・坂本地域に大きな影響をおよぼすと考えられる藤原岳について調査を行った。その結果については次報で報告する予定である。

6. ま と め

セメント工場周辺部における重金属のうち前報のカドミウムに続き鉛、亜鉛、ニッケル、銅について土壤汚染を調査した結果、

1. 工場周辺地域においては、カドミウム同様、鉛、亜鉛による汚染がみとめられる。

2. 汚染の原因は表層、下層土の濃度差、工場からの距離によりその濃度は減少することより、セメント工場に由来すると考える。

3. 大貝戸・坂本地域特に大貝戸地区土壤はカドミウムと同じように、鉛、亜鉛濃度が異常に高く、表層、下層に濃度差がなく、工場に由来するよりも地質に由来する汚染の方がより大きいのではないかと考えられる。

本研究の要旨は第2回環境保全・公害防止研究発表会(1976, 東京)において発表した。

稿を終るに当たり試料採取に御協力賜った藤原町役場産業課の諸氏に謝意を表します。

一参考文献

- 1) 東京都公害局: 日の出村におけるカドミウム汚染調査結果, 1974.
- 2) 早川友邦他: 第1回環境保全・公害防止研究発表会講演集, 25~26, 1974.
- 3) 田島隆俊他: 第2回環境保全・公害防止研究発表会講演集, p. 47, 1975.
- 4) 村田元秀他: 全国公害研誌, 1, 39~45, 1976.
- 5) 山田幸延他: 三重県公害センター年報, 第3号, 58~62, 1975.
- 6) 板野義太郎他: 科学, 44, 487~491, 1974.
- 7) 熊城一男: 日本公衛誌, 19, 633~636, 1972.
- 8) 環境庁水質保全局土壌農業課編: 「土壤汚染」, p. 197, 白亜書房, 東京, 1973.